

東京医科歯科大学 献体の会会報

けんたい

第48号

発行／東京医科歯科大学 献体の会

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 03-5803-5147

国立大学法人 東京医科歯科大学医学部臨床解剖学分野内



夏夜

撮影 原 佑輔

目次

ご挨拶

東京医科歯科大学歯学部 部長

東京医科歯科大学病院長

《東京医科歯科大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

追悼の辞 東京医科歯科大学 学長

追悼の辞 学生代表

東京医科歯科大学 篤志献体活動の報告会

ならびに東京医科歯科大学 献体の会総会

令和四年度解剖体追悼式

追悼の辞 東京医科歯科大学 学長

来賓追悼の辞 医科同窓会理事長

学生追悼の辞 学生代表

《篤志解剖全国連合会関係行事》

第四十八回篤志解剖全国連合会団体部会・大学部会合同研修会

ならびに第五十二回篤志解剖全国連合会総会

《会員寄稿》

【随筆】

ユッキーとヨッピーの不思議なお話

健体を献体く硬い話からいい話へ

【詩】

【短歌】

【俳句】

【川柳】

【五行歌】

【絵日記】

【絵画】

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《解剖学実習を終えて》

《ご挨拶》



東京医科歯科大学

歯学部長

依田 哲也

東京医科歯科大学歯学部長を拝命している依田哲也でございます。献体の会会員の皆様におかれましては、平素より本学の教育ならびに研究に対して多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

昔の話になりますが、大学院生の時に口腔解剖学の教室で研究させていだいていた関係で、学部学生の解剖実習指導の補助をしておりました。また、以前勤務していた大学では夏の選択実習として臨床解剖実習も担当したこともありましたが、現在では口腔外科を専門にし、手術も担当しますが、当然のことながら、人体解剖の知識は不可欠です。いかに的確に血管、神経の走行や筋膜等の層の把握ができていくかによって手術の結果は大きく左右されます。また、歯科医だからと言って、口腔だけの解剖の知識で良いかというと、決してそうではありません。例えば口腔がんの患者さんの首のリンパ節を切除する治療や、気管切開をして气道を確保する治療をいたします。また、顎の骨の病気を切除した際には、足の骨を移植しますし、唇顎口蓋裂の患者さんの上顎の欠損部には腰の骨（腸骨）の骨髄を採取して移植もします。これらは法的にも歯科医療として認められた行為です。医師のみならず歯科医師にとっても、全身の人体解剖を学ぶことは非常に重要なことなのです。

また、昨今は外科手術を習得するために、ご遺体による研修・キャダバー・サージカル研修が推奨されるようになり、私も日本口腔外科学会・日本顎関節学会による全置換型人工顎関節手術のキャダバー・サ

ジカル研修を毎年担当させていただいています。この手術は二年前に新しく保険収載されたもので、このような新規の手術は、いきなり患者で行うのではなく、キャダバー（ご遺体）で研修することは非常に有意義であり、この手術では保険請求の施設要件として、キャダバー・サージカル研修が義務化されています。

この様に、臨床を経験してから行う解剖実習（研修）の重要性が認識されるようになってきています。貴重なご遺体ですから、少しでも有意義に活用させていただくべきです。そのため、学生教育の解剖実習においても、現在のような医学教育の初期段階の二年生で行うよりも、臨床系を学習した後の五年生時等に施行した方が、より意義のある実習になるのではないかと考えても示されるようになりました。その代わり、二年生では三次元画像によるバーチャル研修で、人体解剖の知識を習得しようというものです。

昨今の新型コロナウイルス感染で、バーチャル実習の導入は追い風となつています。ただし、バーチャル研修で知識は身につくかもしれませんが、医療人を目指す学生にとっての解剖実習は、それとは別の次元の意義があると思います。昨年の解剖体御遺骨返還式の学生代表の言葉です。解剖実習を終えて、人体の構造を学べたことはもちろんのこと、何よりも実習を通して精神的な成長を得ることができたと感謝を述べておりました。解剖はただ組織を分解するだけではありません。ご遺体なされた方の人生を紐解く作業だと思えます。人間の尊厳に触れ、改めて命の尊厳を実感し、ご遺体と対話することで、医療人としての人生を歩み始めたという覚悟を学生自らが感じ取れる崇高な時間です。解剖実習を通じて、医療人として大きく成長してくれていることを期待しています。

最後になりましたが、献体をされた方々の崇高なご意思に敬意を表すとともに、ご遺族の方々のご尽力に感謝しつつ、末永いご多幸をお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

《ご挨拶》

東京医科歯科大学
病院長 内田 信一

献体の会の会員の皆様におかれましては、平素より医学教育および研究に対して深遠なる御理解と御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、東京医科歯科大学病院病院長の内田信一と申します。以前、この貴会会報においてご挨拶させて頂いた時は、医学部附属病院長でございましたが、二〇二一年一〇月に医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化して東京医科歯科大学病院となり、引き続き病院長を拝命しております。

医学部附属病院は一九四四年に設立された東京医学歯学専門学校附属病院を起源とし、歯学部附属病院は一九一六年に設立された歯科医術開業試験附属病院を起源としておりましたが、組織の効率化や、めまぐるしくかわる社会環境にに応じて、医療系総合大学の病院として社会に貢献するため、より良い形を模索し、一体化させていただくことになりました。

新たな病院の理念は、旧医学部附属病院の理念「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院」と旧歯学部附属病院の理念「優れた医療人の育成に努め、患者さん一人ひとりにあった最高水準の歯科医療を提供します。」を継承し「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し人々の幸福に貢献する」と定め、さらに基本方針として以下の四項目を定めました。

【基本方針】

- 一、患者中心の良質な全人的医療の提供
- 二、人間性豊かな医療人の育成
- 三、高度先進医療の開発と実践
- 四、人々の信頼に応える社会に開かれた病院

このように、医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化したことにより、患者さまにとっても職員にとってもよりスムーズな連携が可能となり、両病院の多職種からの支援によるより良質な医療の提供、受診者に対する医療安全の向上、教育研修体制や治験・臨床試験支援体制の充実および各部門の集約化による業務の効率化など、診療・教育・研究の面で大きな効果が期待されています。今までは、両病院双方にかかっておられる患者様はかなり少なかったことが判明しており、この機会に旧医学部附属病院にのみかかっておいでであった患者様には、卓越した技術をもった歯科診療部門にも受診頂き、旧歯学部附属病院にかかっておいでであった患者様には、全身の診療をさせていただければと思っております。皆様ならびにお知り合いにもよろしくご周知頂ければ幸いです。

さて、二〇二〇年から続く新型コロナウイルス感染症ですが、今年で三年目をむかえて、五月の連休後に思ったより患者数が増えないことから、今年の夏は昨年の第五波と比べれば、落ち着いているのではと楽観視していた部分もありました。しかしながら、この原稿を書かせていただいている七月中旬には明らかに大きな第七波が訪れています。一方、国の対策は、いろいろな会議で提案はできているようですが、実質毎回の波を経ても大きく対応策が進歩している感じは現場にはありません。相変わらず当院にも東京都からコロナ病床の用意の要請がきており、病床配置を再編成する作業に追われています。コロナ患者さんを受け入れれば、それに従って一般診療のためのベットや手術枠が減り、コロナ以外の救急患者さんもみられなくなります。当院が、

毎日五〇件をこえるコロナ患者さんや救急患者さんの入院をお断りをしなくてはいけない状況に追い込まれるこの医療体制は、本当に大きな改革が必要です。病院の機能に応じた役割分担が言われて久しいですが、未だ道半ばです。正直、今回の第七波は、行動宣言が出ていない分、医療者としても患者さんが減る要因がない中で戦わなくてはならず、志気が上がりづらい側面があります。また、実際に院内のクラスター発生が今までなかった当院でも、多くの職員や学生に感染者が出ており、今までは全く違った様相を呈しています。唯一、重症者がまだ増えていない事が救いですが、今後この会報が出ましたときにどうなっていますでしょうか。

このような状況下で、医学生・歯学生の授業や実習もまた制限がかりつつあります。しかしながら、以前の感染下でも人体解剖学実習だけは、制限のある中でも実施されたと伺っております。人体解剖学実習だけは、自らの四〇年前の学生時代を思い起こしても、やはり鮮明に記憶にすり込まれております。以前にも書かせて頂きましたが、当時は入学後二年間を市川の教養部で過ごしていますと、自分が医学部に入学したという実感もなく時間が過ぎていくわけですが、この解剖実習が、医師を志した事の意味を初めて突きつけられる場となったと思います。まずご遺体を目の当たりにすることで「死」というものを現実的なものとしてとらえることになったと記憶していますし、こういったご遺体を「献体」していただいたご遺志につきまして、思いをはせたる機会をいただきました。医学生は、この人体解剖学実習ののち、いろいろな病気について講義や教科書で学び、その後臨床実習を行ったのち医師になって行くわけですが、研修医として、はじめて実際に患者さまに針を刺す手技の際に、神経や血管を損傷しないようにする基本的な知識も、解剖実習がなければ身につかない事だったと思います。やはり目で実際に見て、また手で触らせていただいていた学んだことは、最近いろいろなシミュレーターが登場してきてはいま

すが、今後も人体解剖学実習にまさる学習の機会はないのかと思います。献体の会の皆様の尊いお志に、改めて深くこの場を借りて御礼申し上げます。

さいごに、皆様におかれましては、今夏の第七波を無事に乗り切って頂くとともに、冬にも次のコロナの波やインフルエンザ、はたまたサル痘などの感染症の話も出てきておりますので、益々ご健康に留意されますようお願い申し上げます。皆様方の末永いご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



《東京医科歯科大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

令和四年二月九日（水）、十日（木）の二日にわたり、東京医科歯科大学M&Dタワー二階の共用講義室一・二において、第三十八回東京医科歯科大学解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式が執り行われました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮し、参加されるご遺族に対しては、二日間の午前・午後に分けてご来場いただき、教職員も限られた者のみ参加了しました。

立春を過ぎてなお寒さが続く中、第二日は朝方の雨が雪へと変わる天気となりました。式を司る大学職員は建物の内外で連絡を取り合いながら、お一組ずつ、ご遺族を控え室に導きました。ここは階段教室と呼ばれる特別な講義室で百の座席が後ろにいくほど高く配置されています。最先端の医学研究をリードする大学の趣を感じさせる教室のあちらとこちらで、式に参列するお一組の皆様が揃うのを待ちました。そして、準備が整った頃合いをみて、ご遺族に隣室の式場を案内しました。

式場の正面には銀屏風に白い祭壇が設置され、両側には春の花がふんだんに生けられていました。時折、屋根を打つみぞれ雪の音が聞こえる他の音はなく、厳かな空気に満ちていました。ふたたび、祭壇に目を向けると、そこには献体成願者のお名前の札が貼られ真白な布で包まれた御骨箱が据えられていました。さあ、どうぞとの声に、お一組のご遺族が祭壇の前に並び、代表が前に進まれました。全員が御骨箱に深く一礼した後、初めに祭壇の向こう側に立つ教員が献体成願者のお名前に続いて感謝の言葉を述べました。そして、御骨箱を捧げ持ち、ゆつくりと祭壇の前に回って姿勢を正し、ご遺骨を返還いたしま

すと述べ、ご遺族代表の手へと御骨箱が受け渡されました。次いで、文部科学大臣感謝状が贈呈されました。

その後、ご希望に応じて、御骨箱を濃紫の風呂敷で包みました。係員が白い台の上に布をひし形に広げ、その中央部に御骨箱をそっと載せました。次いで、後ろ側の布の角を御骨箱の前方に持っていきました。そして前側の布の角を後方に持っていき重ねました。そして左右の角を御骨箱に沿わせながら形を整え、固く結び、端を左右に広げ、ふうわりと形作りました。

一家族ごとに行われる式では、ご遺骨の返還は故人との水入らずの再会の場にもなります。御骨箱を包むという動作をじっと見守るご家族もあり、また、故人の思い出を語り合うご家族もありました。

式場に安堵の思いがゆつくりと満ちる中、御遺骨返還式及び感謝状贈呈式は滞りなく終了しました。



追悼の辞

東京医科歯科大学

学長

田中雄二郎

この度は、本学のより良き医療人、知と癒しの匠育成の為に、ご遺体くださいました方々のご遺族の皆様、に大学を代表して御礼を申し上げます。

本来であれば、ご遺族の皆様、に、直接ご挨拶を申し上げたいところですが、いまだに猛威を振るう新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、郵送でのご遺骨の返還または規模を縮小したご遺骨返還式を開催させていただくことといたしました。

さて、今日の医学・歯学の進歩は目覚しく、様々な領域で新しい知見が集積し、その上テクノロジーの進歩と相俟って、新しい医療技術が開発され、人々の健康と社会の福祉に大きく寄与してまいりました。しかし一方では、ヒトの生命そのものに携わる医療人には、今まで以上に社会的責任や医療倫理が問われております。

医学生・歯学生在が専門課程に進み、ヒトのからだに直接接する最初の経験が、人体解剖学実習であります。

ご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を学びつつ、生命とは何かに思いを馳せ、その神秘性と尊厳に触れることとなります。

まず学生は戸惑い、畏れを感じるようになりますが、やがて奇跡とも思えるその精緻な人体の構造を知るにつれ、これまで経験したことのない生命に畏敬の念を抱くこととなります。

同時に、自らの御身体を医学・歯学の発展のためにささげるといふ献体という行為が如何に崇高なものであるかを感じ理解することとなります。

そして、そのことに心から感謝しつつ、医療人としての教養と感性を研ぎ澄ましてまいります。

医学の進歩とともに、医の倫理・生命倫理が強く叫ばれておりますが、解剖学実習に献じられたご遺体は無言のうちに「医の倫理とは何たるか」を学生に語りかけてくださっているのです。

結びに、献体という崇高なご遺志を尊重し、今日までご遺体を私どもに委ねて下さいましたご遺族の皆様、の寛大さと寛容に深く感謝の念と敬意を捧げる次第であります。

私ども医学・歯学教育に携わるものならびに学生たちは、皆様への尊いお気持ちを本日さらに深く胸に刻み込んでまいります。

ここに、医学・歯学の教育・研究・臨床の発展のために一層の精進を重ねることをお誓いするとともに、ご献体下さいました方々のご冥福をお祈りしつつ、深甚なる感謝を込めて私の追悼の言葉とさせていただきます。

令和四年二月四日



追悼の辞

東京医科歯科大学 学生代表

医学部医学科 二年

伊東

巧

はじめに、ご遺骨返還式にあたり、ご献体してくださった方々並びにご遺体を私たちに預けてくださったご遺族の方々に深く感謝の意を表し、謹んで故人に哀悼の意を捧げます。

ご遺体を解剖学教育の一環として解剖させて頂いた学生の一人として、私自身が解剖実習を通して感じたことや考えたことについて、この場をお借りして述べさせていただきます。

実習を行っていく中で、人体は私が考えていたほど単純明快でない、ということに気が付きました。予習をして臨んでも、目の前の構造物が何であるかを認識することは容易ではなく、全く異なる組織を見分けることさえ一苦労ということも何度もありました。学期初めのほとんど何もわからない様な状態から理解しやすい教科書や講義で学習して、ある程度知識を蓄えた上で、わかりやすくできているわけではなく、人体の構造を理解する座学と実習は、どちらもなくてはならないものですが、とりわけ後者を実際の臨床現場に出る前に経験することが重要だと感じました。このようなことを勉強途中の我々学生が経験できるのは、ご献体してくださった方々のおかげであるということを変更して思い返さずにはいられません。

解剖実習に際して私が感銘を受けた言葉があります。それは「ご遺体は最初の患者さんだ」というものです。低学年のうちは医学生という立場で患者さんに接する機会は少なく、特に、私達の学年はそのわずかな機会すら感染症の影響で無くなってしまうしました。解剖実習に際して自分たちが担当するご献体に向き合い、自分が医師になりたい

ことを改めて自覚しました。

加えて、専門的な内容を学習しているとつい忘れがちになってしまいう「最も診るべきは疾患そのものでなく患者さんである」という医療の大原則が強く心に刻まれる経験にもなりました。また、解剖実習は、担当させていただいたおひとりに向き合う体験であったのと同時に、複数のご遺体を同時に拝見し個人の違いを認識する機会でもありました。私は、その違いについて気が付く折に、ご献体してくださった方々の生前の生活へと想いをめぐらせました。解剖実習での経験は、医師として大切なことである「患者さんに寄り添うこと」について今まで以上に深く考えるきっかけとなりました。

『献体とは』のリーフレットに、献体の最大の意義は学識・人格・技量ともに優れた医師・歯科医師を養成するための礎となることであると記載があります。私は学識・技量については手ごたえがありますが、自分が解剖実習を通して十分に人格を養うことができたのか、正直自信はありません。しかしながら、少なくとも、これまで述べてきた気付きがあり、自分達のことを期待してご献体してくださった方々がいることに對する感謝があります。貴重な経験と、それらを与えてくださったご献体して下さった方々への感謝によって、私は、医療の限界や実情に対して抱くやるせなさに向き合う勇気を頂いたと感じています。

ある有名な医師の言葉を借りますが、思うに医師というものは、「眼前の冷酷な現実を見る眼」と「その先の温かみを見る眼」の二種類の眼が必要です。解剖実習は後者の「眼」を医学を学び始めた重要な段階で育むことのできる機会であったと感じています。この機会を無駄にせぬよう精一杯考え、努力します。

末筆ながら、ご献体してくださった故人の方々に心より哀悼の意を捧げ、ご遺族の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げて、追悼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会ならびに 東京医科歯科大学献体の会総会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の状況を受け、開催を中止することになりました。また、本年度は東京医科歯科大学献体の会現況報告といたしまして、令和三年度の献体の会の活動状況を、会員の皆様にお送りいたしました。



梅雨の躑躅

撮影 飯塚みなみ

令和四年度 東京医科歯科大学解剖体追悼式

令和四年十月二十七日木曜日、午後一時より、築地本願寺において、東京医科歯科大学解剖体追悼式が行われました。今年度も、新型コロナウイルスの感染防止対策として、来賓、学内関係者および医・歯学部学生のための参列による開催となり、追悼式の様子はインターネット上でライブ配信されました。

はじめに、今年度に誓願成就された二八七柱（病理解剖・法医解剖含む）の氏名が奉読されました。そのお名前は、お一人おひとりの人生の象徴であり、参列者は、今は旅立ってしまった方々の人生に思いを馳せました。

全員で黙祷を献げた後、東京医科歯科大学学長の田中雄二郎先生、続いて医科同窓会理事長の大野喜久郎先生より追悼の辞が述べられました。

学生代表の医学部医学科二年生の光丸翔さんからの追悼の辞では、「どのような思いがあつて献体してくださったのだろうか」という故人に対する思いや、「患者さんに対して最も良い医療を提供するためにも、私たちは常に向上心をもって学び続ける必要がある」と医師・歯科医師を志すにあつた強い覚悟が述べられました。

学長、理事、来賓、式委員、教職員、学生の順に、参列者全員が献花を終えた後、閉会となりました。

続いて、本願寺のご厚意による追悼法要が行われました。参加者は浄土真宗本願寺派の作法によるお焼香の後、築地本願寺宗務長の中尾史峰様より「仏様のお話」をいただき、午後二時半過ぎに終了となりました。

追悼の辞



東京医科歯科大学

学長

田中雄二郎

本日ここに、国立大学法人東京医科歯科大学解剖体追悼式を挙げるにあたり、解剖学・病理学並びに法医学解剖に、ご遺体を捧げてくださいました二八七名の方々に對し、謹んで哀悼の意を表すると共に深い感謝の念を捧げるものであります。

本来であれば、ご遺族及び献体の会の皆様に、この築地本願寺にて、直接ご挨拶を申し上げたいところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度は学内関係者のみでの開催とし、本式典の様子はWEBにて配信させていただくことといたしました。

人体解剖学は、医学・歯学の次世代を担う医療人の育成に当たって誠に重要な意義を持っております。

解剖学実習では、学生はご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を習得しつつ、初めて、死という逃れようのない生命の尊厳に直面します。これを機に、学生は「自分自身が快適に生きたい」という受動的・利己的な意識から、「自分以外の人が快適に生きるために」という能動的・献身的な思念に変わり、自分たちは「世のため人の為に医学・歯学の道で研鑽を積むのだ」と、医療人としての決意を新たに、学んでいくこととなります。

病理解剖では担当の医療チームが現代医学の叡智を駆使し、全力を挙げて治療に臨んだにもかかわらず、効を奏さず、ご遺族の願いも虚しく、帰らぬ人となったご遺体を解剖させていただきまします。ご遺体より提供された病巣や臓器の精査と治療結果から知り得る新しい知見は

同じように悩む他の大勢の患者さんの治療あるいは発症予防に役立てることが出来る貴重な示唆を与えてくださいます。

また、法医学解剖は、黙して語らぬご遺体の死因を特定し、時には犯罪性の有無を明らかにして、社会の秩序の維持に役立つものであります。

このように、それぞれのご遺体は、それぞれの立場で医学・歯学の進歩に光明を投げかけて下さり、そして人間教育の上で、何ものにも変えがたいご教示をいただき、学生の蒙を啓いてくださいます。

医学・歯学の発展のためとはいえ、自らご遺体を献体される崇高純粋な精神、そしてご遺族の示される深いご理解とその寛容なお心に、私どもは改めて深甚なる感謝と敬意を表し、また、心を新たに、一意専心医学・歯学の教育・研究に一層の精進を重ねることを、固く誓うものであります。

東京医科歯科大学は、菊薫る本日、ご遺族並びに献体の会会員の方々、そしてご来賓の方々とともに、ご遺体を賜りました故人の方々を偲び、ここに謹んで追悼の辞といたします。



追悼式会場の築地本願寺



焼香の様子

来賓追悼の辞



東京医科歯科大学

医科同窓会理事長

大野喜久郎

本日は東京医科歯科大学の教育と研究のために献体されました方々およびそのご遺族の皆様、東京医科歯科大学の献体の会会員の皆様に対し、東京医科歯科大学医科同窓会を代表致しまして追悼の言葉を申し上げます。

今年もまだ新興感染症は収束しておらず、現在もコロナ禍にあり、いつものような大人数での追悼式は可能ではありません。このような状況におきましてご親族を亡くされましたご遺族のお悲しみはいかばかりかと拝察するに余りあります。その深い悲しみの中で、ご遺志を尊重し、医学・歯学の教育および研究のために、献体にご理解をいただきましたご遺族のご厚意に対しまして心より感謝申し上げますと共に私どもに科せられました期待と責任の大きさを改めて自覚する次第でございます。

近年、きわめて精巧でリアルなコンピューター画像により人体を映し出す技術が発達してきましたが、これらの技術はあくまで影にしすぎません。

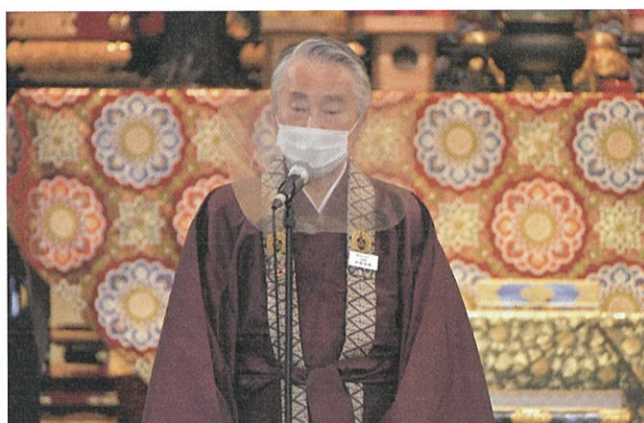
実際のご遺体の解剖を通して検索することにより、ただ単に画像情報と重なるものが得られるだけではなく、肉眼観察および顕微鏡等によつて組織や細胞の実像に迫ることができます。それだけではありません。学生や私どもにとりましては、ご遺体に接することにより改めて人間の尊厳を考えることになるのです。

自らの死を医学・歯学を学ぶものの魂の中に生かし、未来に蘇らせ

るという尊いご遺志をもつてご遺体を捧げられた方々、また深い悲しみの中で解剖にご理解を下さいましたご遺族の方々に心から御礼申し上げます。

人は誰も無病息災、不老不死を願いますが、人みな死から逃れることはできません。不幸にして病におかされ、解剖にご遺体を捧げて下さった方々の心ざしを生かすべく、未来の医学・歯学の進歩と発展を目指し、さらには人類の幸せのためにおいっそう努力して行く所存でございます。

最後になりますが、本日ご列席のご遺族の皆様、献体の会の皆様方におかれましては、何よりもお健やかでお過ごし下さいますよう心から念願致しまして、私の追悼の言葉といたします。



宗務長によるご法話



法要の様子

学生追悼の辞



東京医科歯科大学 学生代表

医学部医学科二年

光丸

翔

まず初めに、ご献体してくださった方々、並びにご遺体を私たちに預けてくださったご遺族の皆様方に、東京医科歯科大学の学生を代表しまして心より感謝申し上げますとともに、故人の方々に對し謹んで哀悼の意を表します。

私たち学生は、第一学年での教養教育を経て、第二学年の四月より専門科目として発生学や人体解剖学といった医学・歯学の基礎を学び始めました。私は高校生の頃、医師、特に外科分野を志してこの大学に入学したため、手術の根本となる人体解剖学実習を経験できることに、大きな期待を抱いていました。しかし、いざ実習が始まると、解剖中に目にしている構造が一体何なのか分からなくなることが、何度もありました。私は、ご遺体の身体が教科書の図よりもはるかに複雑で精巧であることに大変驚きを覚えました。それと同時に、自分がただ名称を覚えることに一杯になっていて、人体の構造がもつ意義まで考えて学ぶことが出来ていなかったと感じ、学習への姿勢が甘かったと反省しました。

また、実習中に故人に対して思いを馳せることもありました。「どのような思いがあつてご献体してくださったのだろうか」「亡くなる前はどのような人生を送ってきたのだろうか」といった思いが、実習中のみならず家にいるときも、何度も頭をよぎりました。私は、今まで教科書や画面だけをみて医学を学んだつもりになっていましたが、私たちが将来医療で向かい合うのは、他でもなく生身の人間なのです。

解剖実習でのご遺体に触れるという経験のお陰で、医師、歯科医師は病気ではなく人を診なければならないということを、改めて思い直すことが出来ました。

人体解剖学実習は、解剖学という学問だけでなく、医師、歯科医師として必要な倫理観を学ぶ機会でもあったと確信しています。医学、歯学は日々進歩し続けており、患者さんに対して最も良い医療を提供するためにも、私たちは常に向上心をもって学び続ける必要があります。また、医師、歯科医師が人の命を預かる職業であるということを自覚し、患者さんひとりひとりに對して向き合うことが私たちの使命だと感じています。本日このような式典を迎え、私たちの実習がこれだけ多くの方々の支えのもとに成り立っているのだと強く実感しております。改めまして、このような機会をいただけた事に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、ご献体してくださった故人の皆様を偲ぶとともに、ご遺族の皆様のご健勝を心から念じ申し上げます。追悼の言葉とさせていただきます。



学生による献花の様子

《篤志解剖全国連合会関係行事》

篤志解剖全国連合会

第四十六回団体部会・大学部会合同研修会ならびに第五十二回総会

令和四年三月二十六日、篤志解剖全国連合会第四十六回団体部会・大学部会合同研修会ならびに第五十二回総会が、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、会場（大阪市立大学医学部キャンパス）開催は中止となり、ZOOMを用いた全面WEB方式での開催となりました。全国から五十大学、二十団体の百三十九人の参加者がありました。

団体部会・大学部会合同研修会は、大塚愛二篤志解剖全国連合会会長の司会で始まりました。

講演に先立って、兵庫医科大学 解剖学細胞生物部門 八木秀司主任教授、中村高志学務部長より、「報道に関する事情説明と今後に向けて」のお話がありました。

次いで、日本外科学会CST推進委員会・委員、北海道大学病院 診療教授 七戸俊明 先生より「日本外科学会CST推進委員会からの報告」、日本篤志献体協会理事長、東京医科歯科大学名誉教授、東京医科歯科大学献体の会会長 佐藤達夫 先生より「篤志解剖全国連合会総会五〇周年を記念して」というテーマで二つの講演が行われました。

その後、続けて総会が行われました。総会は、天野修 篤志解剖全国連合会副会長の司会のもと行われ、三ツ林裕巳 衆議院議員、羽生田俊 参議員議員などの挨拶や、篤志解剖全国連合会の理事選出結果の発表、令和三年度会務報告、収支決算承認などについての報告、協議があった後に、会は無事に終了しました。

次回は東北大学にて開催予定をしています。

《会員寄稿》

【随筆】

ユッキーとヨッピーの不思議なお話

3186

三浦 教子

亡父が長年築いてきた献体活動を引き継ぎ、何かと世の中にお役に立ちたい一心で活動しています。お陰様で、前回投稿した「アイちゃんの献体活動」も大人気で、田舎の身内、友人、知人からも愛媛の宝物と言われるとともに、親孝行できた喜びを一人でしみじみ感しています。そのアイ子（母親）も百一才になり、元気です。若い頃から自分のことは後回し、困った人を先に助ける「心」は見習いたいですね。

今回は、ユッキー、私の知人で、前回「こんな良い事を活動しているのよ」と記事を見せたら、すぐ「私も献体登録したい」と言ってくれました。「こういう人もいるんだな、また日本の医学がきつと発展する」と心の中で祈りながら次のよき理解者に出逢えることを夢みています。

私の孫、ヨッピーが八才の子供だった頃に自分の母親が献体登録をしたことを話したら、しくしく泣きだし、「お母さんの全身が切られて、痛い、かわいそう」と理解できない様子でした。そのヨッピーも今や二十二才となり、ちょっぴり大人になり安心していきます。献体も本当に「正しい活動」「正しい行動」をしないと信用を失くしますね。ヨッピーは、今は献体について理解して、どんどん母親にも私にも訴えてきます。私も、分かる範囲は伝えていきます。

娘も是非自分が入るお墓を見ておきたいと、先日、私と二人で武蔵野霊園に行きました。

霊園の入り口に歌手・五木ひろしの家のお墓があり、ドラえもんも迎えてくれます。娘は献体のお墓を見つけると、すぐさま飛んでいき、

ヤングのようにはいしゃいでいました。結果、すごく喜んでくれ、「お父さんに会いたくなったら、この霊園へきていっぱいお話するといいいね」と、まるで少女のように武蔵野霊園内を探索して、天国にいる亡き父にお話した様子でした。ヨッピーの登録も、もう目の前ですね。登録するたびに亡き父に、天国に報告です。



陽光

撮影 平野 仁菜

健体を献体へ硬い話からいい話へ

3941 吉本 亮三

市民による市民のための大学を標榜するNPO法人富士見市民大学を受講している。

今年は四十五期で五講座を選択した。週末に二時間五回公民館で開催。講師は近隣大学の現役の教授等、行政では富士見市長が初回講師を担当している。

ここ数年、文章教室「エッセイ（作文・随筆・随想）」を書いてみよう（講師・元毎日新聞編集委員永杉徹夫先生）を受講している。シラバスでは、与えられた課題に関連する素材をどう効率よく集めるかを学ぶこと。次に読者に共感を与える文章を作るには、素材をどう組み立てるかを学ぶこと、そして一番大切なことは、添削指導によって、自分の「書き癖」——良いところ・悪いところ——を自覚し、文章を書く上での自信を深める。とある。

五回の講義の中に、実作への指導が組み込まれる。第一週…課題発表 第二週…作品提出 第三週…添削と講評付きで返却 第四週…修正作品提出 第五週…作品集配布と合評会、とかなりタイトでハードな日程・内容である。

先生の提示課題及び提出課題は ①りんご→ごみ収集車は来なかった ②ふるさと→掌に温もりが残っています ③道→ヨイトマケの歌→わが道終活への序章 ④風→楽しみながら歩けば風の色が見えてくる ⑤夢→樽の中で熟成中 ⑥目→還暦プラス一八年目→立教セカンドステージ大学へ ⑦九こころ→「心療内科」って ⑧街→人流→コロナ禍の街——として挑戦した。

初回の先生の添削・コメント。「りんご」に話を絞ってもう少し全体を分かりやすくしたい。やや突き放したものの言い。悪くはないが読

者にとつてはついて行きにくい。

昨年「街」だったので、コロナ禍拡大中の街中の人流についてまとめた。先生評は「わが国の置かれている状況を、鋭く、かつ的確にとらえたエッセイ。文体は筆者固有のもので、論の進め方と合致している。ソノタメニ、ヘタに赤字を入れたり改行したりする指摘はやめる。結びにきて、筆者の信念、その確かさがはつきり分かり、このエッセイの高貴さ力強さ理解できる。頭が下がる・・・」

厳しい添削・講評もあるが各所に思いやりのあるやさしさが溢れている。しかし各回の先生添削コメントは硬すぎるもの言い、強すぎる言葉への要注意を感じる。「ちょっといい話」「ほっこりする話」として、楽しく読めるエッセイとしたい。

大尊敬の日野原重明先生「〇歳私の証 あるがままに行く」全てスラップして本棚に収まっている。凄い！ 凄い！ 私にとつてエッセイのバイブルだ。九十一歳二〇〇二年秋に始まった連載、逝かれた二〇一七年一〇五歳まで七〇〇回を超える。偉ぶらず、飾らない筆致にひかれて高みへ読み手をいざなう。安田講堂他で数回講演を拝聴した。「人生は習慣である」「死ぬ瞬間まで人生の現役」「年齢は勝ち負けではなく謙虚にそして存分に味わう」日野原哲学を語った。

たまたま、早川千絵監督「PLAN75」が公開されている。私も後期高齢者入りしているが、逆らってまだまだ健体保持できているので日野原哲学を実践したい。

小池真理子の朝日新聞連載「月夜の森の梟」は夫の作家の富田宜永さんを喪った追悼を文学へ昇華させたエッセイである。連載二か月後「すべて実際あったこと」「ストック原稿は作らず、締め切りを前にして、その時々、目に映るもの、心の中に流れたものだけを書くようにした」と語られている。

分野は異なるが、益田ミリ氏のコミックエッセイ「今日の人生」はほっこり読める。

コロナ禍前の電車の中でベビーカー親子に出会った。お母さんは背中を向けてスマホに夢中であつた。赤ちゃんが眼が合い無言であやしていたら突然声を出して笑いだした。びっくりして母親が振り向いたが、私は知らんふりをしていた。母親は不審げにスマホにもどつた。降りる時赤ちゃんにさよならした。スマホのお母さんよりずっとずっと素敵な、心を癒される笑顔だつた。

前回も記したが、献体の会では「重症の感染症の場合は献体をお受けできない場合もある」としている。「健体を献体する」を命題としているので終息どころか収束とも言えぬ下げ止まり現況の都心への電車には殆ど乗らない。可愛い笑顔に会えないのは残念だが・・・

(令和四年六月二十九日)



【詩】

命の持ち時間

6085

床嶋 まち

命の持ち時間は人それぞれ
 どのぐらい残っているかは当人にもわからない
 死と隣合せの中国戦地から
 奇跡的に生還したというのに
 父の持ち時間は六十二年しかなかった
 日の出から日暮れまで働き続けた母の
 持ち時間は八十七年だった

おむつを当てられ一日中寝かされていた母に
 片道六時間掛け毎月会いに行った
 面会するたび食が細り痩せ衰えていった
 介護施設での「現実」を目の当たりにして
 自分はこれからどう生きていくべきか
 考えさせられた

ある朝
 天に昇っていくようなめまいと
 激しい吐気に襲われ目が覚める
 まだやりたいことがたくさんあるから
 このまま昇天してしまう訳にはいけない
 尋常ではないめまいと吐気で何もできないので
 迷った末一一九番する

救急車に搬送されて病院へ着くと
 めまいと吐き気を止める点滴をされ命拾いした

生きているといつ何が起こるかわからないし
 命には限りがあることを思い知らされた

母の歳まで生きられたらあと十二年
 終焉の時を心穏やかに受け容れるには
 今何をしてあげばいいのだろうか？

【短歌】

4582

福島 恵子

夕暮れの 明ともせし道ゆかば 父と歩けし 日々を 思わむ
 年ゆかば 命短し 思えども 献体約し 心やすらぐ
 三刀流 暴露されたる 恥しきされど 寸時の嬉しきもまた有り
 投票日 最近くなれば 候補者の名前呼びつつ 自転車はゆく
 絵も描き歌をも愛する我なれど 若葉欲しけれ 年ゆかばこそ

【短歌】

4936

内田 敏行

この世にて 知る惨状 ウクライナ 露国の罪は プーチンにあり
 相模灘 西風吹けば 映える富士 されど荒波 ヨットの雄姿
 若き日に 君と歩きし 街角を 今ひとり来て 空しさつのる

【短歌】

4963

津田 典男

盲いたる 唐の和上に日の本の 春きかせんと 蛙なくなり
 蓬菜に 歌詠む人の 歌あつめ 呉建堂師は 台湾万葉集を
 根つぎして 醍醐の桜 よみがえり 垣をつくりて 土やわらかく
 旭川 せきにせかれて 高瀬舟 船頭小唱 きかれなくなり
 幾重にも 並び流るる 桜花筏 御霊のせてか 大海原に

【短歌】

『面白短歌』

5822

奥山 都子

目に青葉 ほととぎす 初鰹 ホームは出れず 隔離生活
 人死ねば 経帷子を着せられて 柩に入れられ 深くねむりぬ
 先々は 医科歯科大学 行く身なり 切られようが 焼かれようが
 あの頃は おしゃれでハデでほめられて 今はホームで 歌詠む女に
 百才も 生されば人も 疲れけり 我が身の命 知る人もなし
 ホームとは 何もしないで 生きるとして 三食昼寝 オヤツまであり

【俳句】

988

真柄百合子

頼りなき武器の一つか蟻地獄
 鈴らんを亡夫の写真の前に活ける
 腕時計形見に貰う父の日に
 花氷風の扉の内にあり
 草取りは「海辺のカフカ」読んだ後

【俳句】

5095

山口みどり

病院の庭歩く姉白い藤
 トキの舞う田に水満ちて薫風流る

【俳句】

5239

岡本 祐子

空見上げあいたい人とつづいてる



【俳句】

凍て鶴よもう帰らぬと雪椿
雪日の真白き中をひとりゆく
梅かほる飛び急ぎたるメジロかな
ツツジ咲く日出する処紅々と
草燃ゆる我々先に土群れる

6277

濱田裕紀子

【俳句】

紫陽花は雨の時こそ美しい
入梅はいつもとちがい早く来た
六月はあちこち見ても花さかり
野の花はけんめいにみてくださいと
仏壇は百合の花よりかこまれて

6296

渡邊トキ子



【川柳】

人死ねば 金もいらなし ゴミもなし
来て見れば 老人ホームは ボケだらけ
医科歯科の 郵便来ると 手がふるえ
酒呑みの 愚痴を聞いたら 夜明け前
母親に 最後の老行 オムツかえ
お犬さま ブランド着せられ ケーキ食べ
イケメンも 教養なくば ただのバカ
政治家は 選挙の時のみ 土下座する
文春は 完売するほど 書きまくり
おしゃれして 三越歩きも 今は過去

5822

奥山 都子

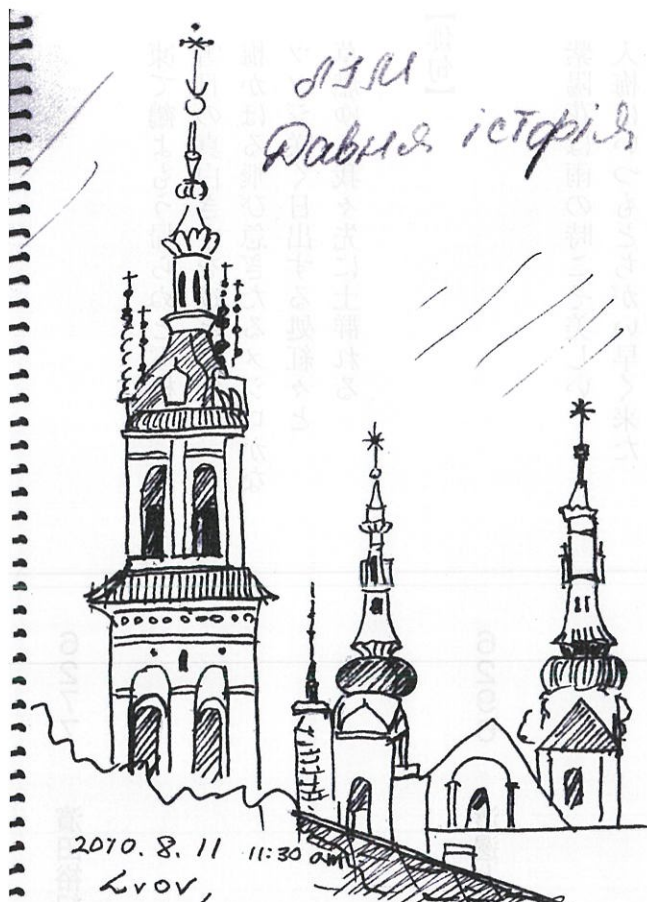
【五行歌】

たらちねの母よ
したたり落ちる汗を
ひたすらぬぐいながら
我を産みたまいしは
浪速の残暑（なつ）よ

1304

中村 和子

病室の窓ガラスを赤く染めて
朝やけが広がりはじめた
街も人も忙がしく動いている
さあ、きょうは
いよいよ退院の日だ



これは 2010年8月

リビウ です

初めてウクライナを訪ねた

(ポーランド) → マイダネク・

ルブリン強制収容所

→ リビウ → (チェコ) →

クラコフ → 中欧各地

リビウ(3泊)

いそいで来た。

キエフ大学日本語科

の女子学生2人が

偶然来て、「一緒に」と

さそってくれ 街や

博物館、教会など

案内してくれ、本当に

楽しくよ。想、出に

なった。ウクライナは

皆々親切でやさしい。

5853

片桐千代子



<オデーサ> 2012. 7. 18. 16:50 黒海遊覧船より

ウクライナを訪ねたか、
のはドニエプル川と古都

キエフ②

と、黒海を船に乗る

と

黒海はルーマニア

ブルガリア側から訪ねた

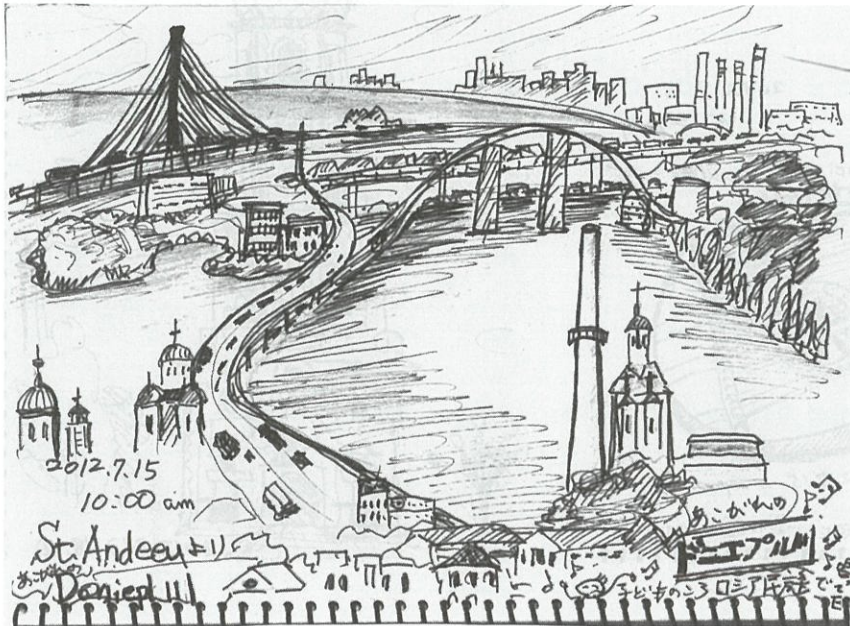
がトルコ側は実現しなかった

(安全でないとのこと)

キーウ

ドニエプル川の中流にある

1950年頃 ロシア民謡が流行っていて
 兄達が♪ ドニエプルのさざ波が〜♪と
 歌っていたのを 小学生の私は覚えていて 感動して
 ついに本物に涙が……



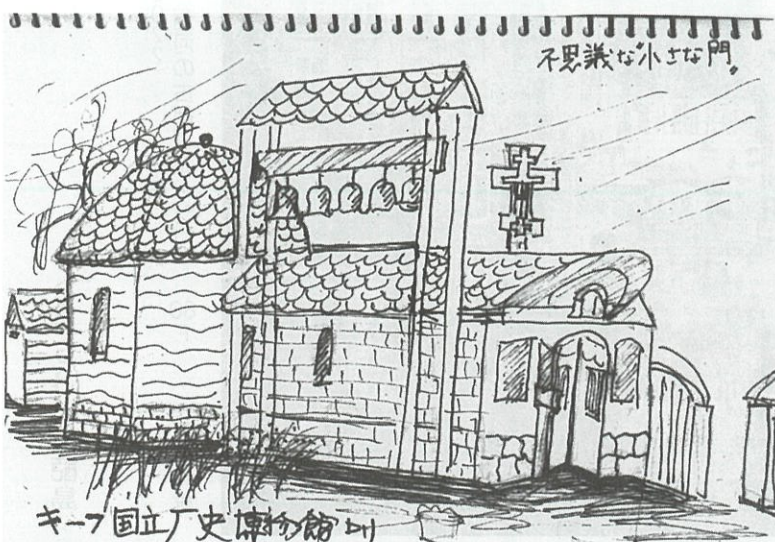
2年後の
 こいは 2012年7月

2度目のウクライナです

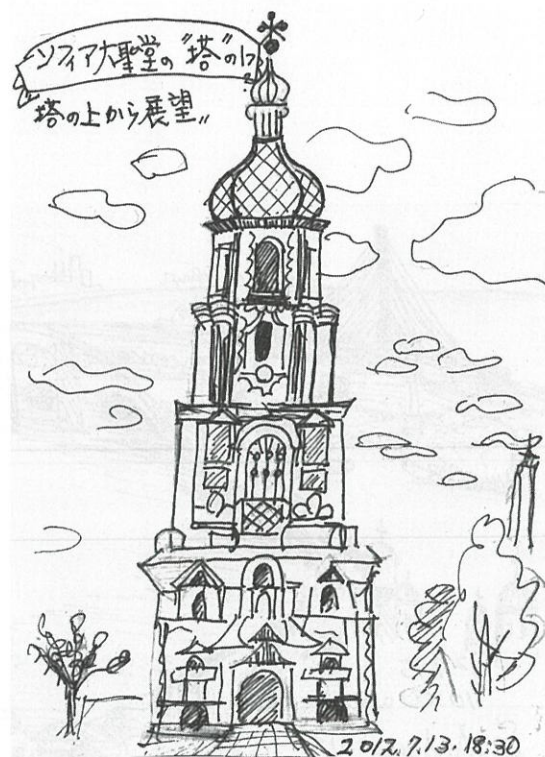
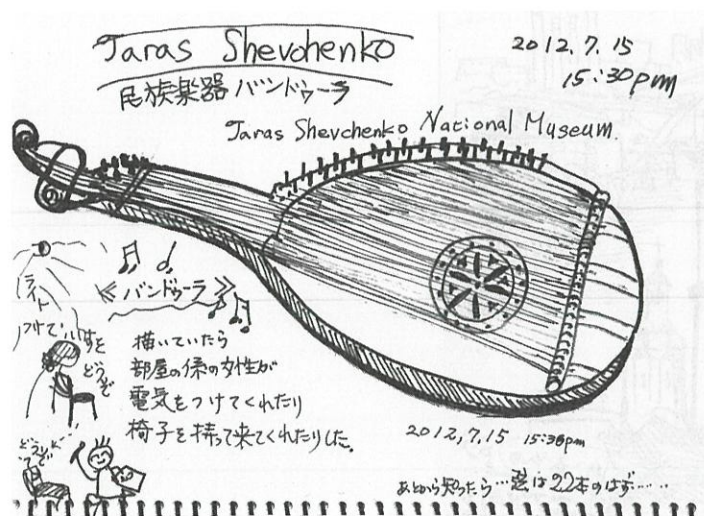
10/11 → キーウ 11:30 列車 19:40
 → モルドバ → ルーマニア
 キシニョウ

ハロカリーへ

すべて1人旅で行き当たりばったり
 なので、不安だったけど皆さん、本当に
 親切、暖かい人柄で、2年後
 キーウ、オデーサを訪ねる旅を
 思い切った実現！ 不安は事は変わらぬ



2012.7.15 11:30 am



第60回記念大調和展 (2022)
60回記念展賞
運河の古都ブルージュ

80 F

配島時雄

【絵画】

6068

配島 時雄

《解剖学実習を終えて》

学生感想文

ご遺族と献体してくださった方への感謝

医学部医学科二年 今田 敬都

私は五月から七月にかけての東京医科歯科大学医学部医学科の人体解剖学実習の授業の一環として、ご遺体を解剖させていただきました。本来にありがとうございます。この経験は私が医師になるということにあたって非常に重要な意味をもつ経験であったと感じています。

実習の一環としてご遺体を解剖させていただくことには二つの意義があると考えています。第一に、より深い身体構造の理解を得られるということがあります。教科書で描かれている身体の構造と実際に見える構造には大きな乖離があり、実際の解剖を通じてこの差を埋めることができたということは非常に重要な事項であったと感じています。第二に、将来医師となる医学生として必要な責任感を理解することとがあります。以前私の祖父が島根大学医学部に献体し、遺族としての立場から医学部の解剖学実習について考えた経験があります。そして今回、自分がご遺体を解剖させていただくという立場から、より一層深く生命の尊さを知り、医師という職業が人々の命に関わる、責任ある仕事であるということを理解できたと思っています。今回の経験を糧にして、社会に貢献できる医師になれるように努力致します。

解剖実習を終えて

歯学部歯学科二年 海老原 遥

まず、献体をしてくださった方、及びご遺族の皆様にご心より感謝申し上げます。貴重な体験をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。

私たち二年生は今年から専門課程が始まり、歯学に関する授業を受けていたことが、教科書で知識を学ぶだけでなく、実際に解剖をさせていただきますことで深めることができました。私は歯学科に所属していますが、今回全身を解剖させていただいたことによって人体はそれぞれの部位で独立しているのではなく、血管などの構造でつながっており、お互いに作用しあっていることを学ぶことができました。この学びを活かして、口腔の治療を通して、全身の健康を改善、そして維持させるケアを行う歯科医師になりたいと思います。また、人体はとても複雑な構造をもっており、全てを理解するためには努力を怠ってはいけなさと強く感じました。医療を通じて社会に貢献できるようこれからも邁進してまいります。

このようなコロナ禍の中で、実際に解剖実習を行うことができるのは本当にありがたいことです。ご協力してくださった献体をしてくださった方、そしてご遺族の皆様に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

実感と使命感を与えた解剖学実習

医学部医学科二年 菊地 晃成

はじめに、献体して下さった方々およびそのご遺族の方々に感謝を申し上げます。

そうした方々の学びを応援して下さる気持ちをもとに成り立っているこの解剖学実習は、私に医者への重みを自覚させていただけのものとなりました。この解剖学実習までは、正直、医学部に入った実感があまりなく、同時に、医者になるということもぼんやりとしか感じておりませんでした。特に今年の場合は、コロナ禍ゆえに一年次はほぼ全てオンライン、二年次も解剖学実習以前はほとんどオンラインだったため、ただ家にいるだけでした。しかし、解剖学実習が始まり、実習する部屋の空気を感じ、ご遺体を目の前にしたとき、今までにない緊張感と共に、医者が命を扱う職業でそれに自分はあるのだという責任感を覚えました。そして、ご遺体の解剖を進めるとともにその念は強くなっていき、なんとしてもこの解剖から学び、ご献体して下さった方々にも誇れるような、社会に貢献できる医師にならなければならぬという使命感に変化していきました。

この貴重な経験を胸に、今後も精進して参ります。改めまして、このような学びの場をご提供下さった方々へ心より感謝申し上げます。

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年 小池 由衣

初めに、実習のために献体して下さった方、及びそのご遺族の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

教科書や講義から人体の構造について学んではいましたが、実習で実際に観察することで、一般的な人体の構造や人によって少しずつ違う構造への理解がより深まりました。しかし、私が実習で一番印象に残っているのは、一つ一つの構造を見るたびに感じた、「学んだ構造が人体には本当に存在していて、これによって私たちは今生きているのだ」という感動です。この感動は、教科書などからは得ることができないものでした。さらに、解剖学実習の度に、献体して下さった方やそのご遺族の方々に対する責任感、将来医療者となる自覚も強くなりました。患者さんやそのご家族への責任、医師としての自覚は将来必ず必要となるものだと思うので、今回の実習は知識だけでなく意識的な面でもとても学ぶことの多い実習になりました。

改めまして、解剖実習という貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございます。この感謝と経験を忘れることなく、今後も努力していこうと思います。

解剖実習がもたらしてくれたもの

歯学部歯学科二年 坂本 茉莉

人体解剖実習はこれまでの大学生活のなかで最も濃い体験でした。解剖実習が始まる前は、果たして自分がやり遂げられるのか不安で、初日は実習室に入るのを躊躇うほど緊張していました。しかし勉強させていただくご遺体と対面した時、自然と自分は医療従事者になる立場として、この方と真摯に向き合おう、そして時間の許す限り多くを学び吸収しようと強く感じたのです。そして日を重ねご遺体と対面する度に、心の中で問うこともありました。どんな人に囲まれたのでしょうか。実習が終わったいま、人体が精巧で多様性に富んでいるということの知識を得ることができ、人間そのものの見方が大きく変わったと自覚しています。この実習を通して、歯科医師を目指して勉学に励むための基盤や自覚が一層明確になりました。一生忘れられない経験です。私達のため献体を決意してくださった故人とご家族の方へは尊敬の念に堪えません。改めて献体してくださった方へ、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

解剖学実習を終えて

医学部医学科二年 佐藤 志希乃

初めに、この度献体してくださった方々、貴重な学びの場を準備してくださった方々に深く感謝申し上げます。

自分が将来、対することになるのは実際の人体でありヒトの体内に注目して毎日学び続けていくにもかかわらず、実際に体の中を見ることはめったにできません。そのため、解剖学実習という場で、自分が将来守っていくべき命がどうあるのか、直接見ることができるというのはとても大切な機会でした。

解剖学実習を通じて、ヒトがたった一つの受精卵という細胞から、少しずつ成長して、六十年、八十年と生き続けるような仕組みが出来上がっていくのは本当に信じられないことだと実感し、生命の神秘を感じました。それと同時に、私たち人間はこのたった一つの体で成り立っていて、そのたった一つの体を頼りに生きていることを、強く実感しました。そのため、身体的な病気でも、怪我でも、精神的な病気でも、たった一つで唯一の体に異変が起こった際に患者さんが感じるであろう不安は想像できます。

今回の実習を通して、将来医師として様々なアプローチの可能性を考えつつ、すべての人々の心身の健康に力を尽くしたいという思いが一層強まりました。

解剖実習を終えて

歯学部歯学科二年 法花堂 藍

まず、ご献体してくださった方、ご遺族の方々に心より感謝申し上げます。おかげさまで、大変貴重な経験をすることができました。

一年生の教養科目を終え二年生になり、いよいよ将来に向けた本格的な授業や実習が始まる、というとても心が躍るような気持ちで解剖実習に臨みました。しかし同時に、東京医科歯科大学に入学して初めての本格的な実習ということもあり、緊張も大きかったです。いざご遺体と対面してみると、事前に学習してきたことはまた違う発見があり、積極的に学習していました。座学とは異なり実際に手を動かすことで、より大幅に知識を習得できました。また今回の解剖を通して、将来歯科医師になる、という展望がよりはっきりしてきて、身が引き締まる思いでした。さらに、自分も将来同じように献体を希望し、後世に貢献したいという一つの夢が出来ました。班員と協力し、意欲的に学習できたことは、何物にも代えられない宝物です。

この解剖実習は、私自身が医療人に成長していくためのとても重要な糧となりました。社会に貢献できる歯科医師になるため、日々努力していこうと思います。

人体解剖実習を終えて

歯学部歯学科二年 水野 舜

まず、本実習にあたって献体をしていただいた方、および遺族の方々に深く感謝申し上げます。

将来臨床の現場に立つことになる私たちにとって、初めて命と向き合うことになる機会であるのがこの解剖実習です。初めてご遺体と対面したときから実習を終えるまで、たんに構造について学習するだけでなく、否が応でも倫理と向き合わざるを得ず、実習の間は様々な感情の裡での葛藤があり、自問自答の日々でした。ですが、この実習を通して私は歯科医療に将来携わる者として、医療を学び、人生をかけて倫理に向き合う覚悟ができたように思います。

また、医学部医学科のみならず、おもに口腔領域を扱う私たち歯学部歯学科の学生にもこのように全身を解剖させていただくという貴重な機会をいただけたことはまぎれもなく献体してくださった方のおかげです。実習を通して学ぶことができた知識を将来の医学・歯学の進歩に役立て、臨床で向き合う患者さんの命を救うことが、私たちの責務であると痛切に感じております。

この感謝を忘れることなく、これからも学修に邁進してまいります。

※「東京医科歯科大学臨床解剖学分野」のホームページにて、令和四年度の医学部医学科および歯学部歯学科の学生感想文を公開しておりますので、ご覧ください。

「解剖学実習を終えて」の感想文の楽しみ方

5482

広田 順子

先日、歯科と医科の学生たちが書いた、解剖学実習の感想文を読ませていただく機会がありました。

中には、実感のこもった、学生の本音が透けて見えるものもあり、それが非常に興味深かったです。

最初に、私が何者かをお話しておこうと思います。

私は鍼灸師で、解剖見学を何度かさせていただいている身。

鍼灸師は、国家試験を受ける前に、必ず解剖見学を1度は経験しなければなりません。

私の場合は大学院にも行ったので、数回、東京医科歯科大学で解剖見学をさせていただきました。

そのような立場から学生の感想文を読んでいると、「分かるなあ」と思うところや、「若者らしいなあ」と思うこともあり、またこうやって「学生」が「医師」に育っていくのだなと頼もしく思える部分もあり、感想文をととても楽しく読みました。

ある正直者の学生は「解剖学実習をする前は、実習しなくても座学で十分じゃないかと思っていた」というのです。教科書で見れば分かるし、画像モデルもあるのだから、わざわざやらなくても、と思っていた。

また、「解剖学は、たんなる暗記物だ」と思っていた。という学生もいました。

分かる！私も鍼灸学校で解剖学を習ったときには、見慣れない、膨大な単語に悩まされました。

何しろ、人間の骨の数だけでも二百もあるのです。その上、それぞれの骨そのものの名前を覚えれば良いだけでなく、その骨に筋肉がくっつくところにまた名前があり、へこみにも名前があり、とんがりにも名前があります。

〇〇神経は、どの筋肉とどの筋肉の間を通るとか、〇〇筋は、どの骨のどの部分と、どの骨のどの部分の間にくっついているかなども全部覚えなければなりません。内臓も全部覚えるのはもちろんのことです。

鍼灸師の私でさえ「こんなの三年も学ぶのは苦しすぎる」と思ったのですから、私が歯科学生なら、きっと「全身の分まで覚える必要ある？」と思うことでしょう。

そんな学生たちも、ご遺体を前にして気持ちが揺らぎます。

「ご遺体に被せているシートを初めて外した時の、息をのむ感覚は忘れられません」と、模型ではない“実物”に圧倒された様子が伝わってきます。

「目の前のご遺体はネイルをされていた」という一文もありました。亡くなる直前まで元気でおしゃれを楽しんでおられたのかと、故人の生活や人生に思いを馳せ始めるのです。

次に彼らを待ち受けるのは混乱です。

解剖を始めてみたは良いが、何が何だか区別がつかないのです。

「色分けされていない」と書いた学生がいて、思わず笑ってしまいました。動脈は赤、静脈は青、神経は白と塗り分けられた解剖図で記憶していたのとは全く違うものが、そこにあるのです。

それまで学生の頭の中で、レゴブロックかパズルのようなイメージ

だった体内が、実は混沌としていていることに戸惑います。

「非常に消耗した」とあるように、学生たちは記憶の中のイラストと、実物の違いを受け止めきれません。「あまりにかけ離れている」と。

あるはずの位置からずれた位置に臓器があったり、分岐するのはもつと先のはずなのに、ずいぶん手前で分岐した神経があったりと、教科書どおりではないことに直面し、「それが事実であるのに、事実ではないように感じた」と。

つまり、教科書どおりの体ではないご遺体を目の前にしてむしろ「こっちのほうの間違ってゐる」とさえ思ってしまうのです。

考えてみれば、もともと成績優秀な学生たちです。

高校までずっと優等生、しかも理系で、答えが一つしかないことばかりを習ってきた彼らにとって、教科書どおりでないものは「間違い」であるはず。なのに、目の前にあるご遺体は「実物」。だから間違いではない。でも教科書と違う。…これは一体どういうことだ?と。

私達自身、普段意識することはありませんが、人体は一つの「天然物」であり、人工的なものではありません。

天然自然の人体を相手にする解剖実習は、たとえるならば、交通標識や信号のある、整備された都会の道ではなく、未開のジャングルを、鉋一本で切り開いていくようなものです。

事前に覚えた骨や内臓や筋肉、神経は、人体を巡るための地図であり、コンパスです。

鉋をメスとピンセットに持ち替え、学生たちは地図の「二次元」を頭の中で「三次元」に置き換えながら、人体という自然の中を進んでいきます。やっと目的のものにたどり着いた時、彼らはまるで遺跡を「発掘した」かのような感動を覚えたことでしょう。その感動を「充実感をおぼえた」と書いた学生もいました。

いつしか夢中で解剖を進めるうち、彼らは気づくのです。

「どのご遺体もみんな違っている」ということに。

教科書どおりの体など、どこにもない、「みんな違う」のだと。

その体験を経たことで「我々は病を診るのではなく、人を診る」のだと気づいたといいます。個人差が、「生前の生活によるものである」ケースもあり、身体はの方が生きた軌跡なのだと気づいた」と。「意識が変わった」「考えの浅さを知った」といいます。

このころになると、最初はイラストと違うと文句が言いたいくらいだった学生たちも「分かりやすい図に描き替えた先人たちの努力は計り知れない」と、むしろ多くの先人たちによって自分が支えられていることに感謝の念さえ沸き始めます。

授業で「学んだ構造が人体に本当に存在していて、これによって私たちは今生きているのだ」と感動したというように意識が変容していくのがよく分かります。

学ぶことの多い日々には、「何のために学ぶのかと、目標を見失ってしまいたいことになることもあった」という彼らが「解剖学実習の最初に黙とうを捧げるたびに初心に立ち返ることができ」「さらに勉強し、多くの人に寄り添うことのできる医師にならなければ」という思いに至るのです。

歯学部 of 学生も「頭や首は全身とつながっている」「口腔は全身の健康の入り口」だと実感します。

「自分は人の命を扱う医療従事者になるのだという自覚を」持てた、「個人差があるからこそ、一人一人にあった治療法を考えることや、対話することが大切」と非常に高い志まで感じさせてくれるようにな

ります。

特にこの年の学生たちは、コロナ禍におかれ、長くりモートの授業ばかりで、いわば高校の延長線のような意識にあったのも致し方ないことだと思います。

それがご遺体を目の前にしたとき、初めて「命を扱う職業に自分になるのだ」という意識に変わるのです。これは、模型やVRなどでは決して惹起できない意識改革です。

ご遺体という「人間の命」を、自分の「手」で解剖していくからこそ「手に入る」意識であり、まさに人体が「手に取るように」分かる感覚なのです。

そんな、学生たちの「人生を変える瞬間」に役立てるのはまことに幸せなことだと、献体登録者として改めて嬉しく感じた次第です。



《東京医科歯科大学献体の会会則》

(名称・事務所)

第一条 この会は、東京医科歯科大学献体の会(以下「本会」という。)と称する。

第二条 本会の事務所は、東京医科歯科大学医学部に置く。

(目的・事業)

第三条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、医学及び歯学の発展と人類の福祉に貢献するために、会員の遺体を無条件、無報酬で東京医科歯科大学に寄贈することを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 篤志献体に関する広報活動
- (2) 親睦会の開催
- (3) 講演会及び集会の開催
- (4) 会報の発行
- (5) 献体者の慰霊
- (6) その他本会の目的達成のため役員会において適当と認めた事項

(会員)

第五条 本会の会員は、第三条の目的に賛同し献体登録した者とする。ただし、この趣旨に反すること、又は本会の品位を著しく傷つける行為のあるときは、役員会において役員の三分の二以上の議決により、会員の登録を取り消すこともある。

第六条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 二名
- (3) 理事 若干名

(4) 監事 二名

2. 理事となる者は、役員会で選考し、総会の承認を得る。
3. 理事の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 会長及び副会長は、理事の互選とする。
5. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
6. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。
7. 理事は、役員会を構成し、会務を遂行する。
8. 監事は会計を監査するほか、役員会に出席して意見を述べることができる。

(会議)

第七条 本会の会議は、総会及び役員会とする。

2. 総会は年一回開会し、会長がこれを招集し、その議長となる。
3. 総会においては、次の事項を審議する。

- (1) 会の運営及び事業に関する事項
- (2) 理事の承認
- (3) その他の事項

第八条 役員会は、会長が必要と認めるとき随時開催し、次の事項について審議する。

- (1) 会の運営及び事業計画
- (2) 収支予算に関する事項
- (3) 会の決算及び事業報告
- (4) その他会長が必要と認めた事項

2. 役員会の議事は、出席者の過半数をもって議決する。

(顧問及び相談役)

第九条 本会に、顧問及び相談役を若干名置くことができる。

2. 顧問及び相談役は、学識経験者、理事退任者の中から理事会に諮り会長が委嘱し、必要に応じ理事会に出席し意見を述べる。

(会計)

第十条 本会の経費は、補助金、寄付金等をもってこれに当てる。

2. 会の会計年度は、四月一日から翌年の三月三十一日までとする。

(その他)

第十一条 本会則の改正は、総会の議を経て定める。

附 則

この会則は昭和五十九年四月二十一日から施行実施する。

この会則は昭和六十二年四月十八日一部改正実施する。

この会則は平成十四年四月一日より改正実施する。

《東京医科歯科大学献体の会役員》

会 長	八一〇	佐 藤 達 夫
副会長	二二七二	星 野 君 枝
理 事	九二二	宮 内 美 栄 子
理 事	二七四二	片 野 尚 子
理 事	四五六二	飯 田 静 夫
理 事	四七八五	磯 秀 夫

献体の会会報編集委員

五二三九	岡 本 祐 子
五四八二	広 田 順 子

◎献体手帳について

二〇二三年「献体手帳」をご希望の方は次の要領でお申し込みくださいますよう、よろしくお願いいたします。

「献体手帳の申し込み方法」

お名前・会員番号をご明記の上、送料として九四円分の切手を同封の上、郵便にてお申し込み下さい。お申し込みは、お一人様一冊とさせていただきます。

なお、ご家族で会員の方が一緒に申し込まれる場合、二冊分の送料は一四〇円となります。三冊以上の方は事務室へお問い合わせ下さい。

申込先

〒一一三―八五一九 東京都文京区湯島一―五―四五

東京医科歯科大学大学院 臨床解剖学分野内

「東京医科歯科大学献体の会」事務室

電話 〇三―五八〇三―五一四七

《会員のご家族へのお願い》

会員の方が亡くなられた時は、次の順序でご連絡と打ち合わせをお願い致します。

一、大学への電話連絡

◎平日 午前八・三〇〇午後五・〇〇

①東京医科歯科大学献体事務局（直通）〇三―五八〇三―五一四七

②東京医科歯科大学（代表）〇三―三八二一―三六一一

平日の勤務時間内出来るだけの対応を致しておりますが、直接献体事務局に連絡をいただいた時、学内に出かけている場合がございます。その時には大学（代表）の電話交換手にその旨をお伝え下されば、こちらから再度ご連絡申し上げますので、ご遺族代表者の連絡先及び亡

くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時をお知らせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

◎夜間・土曜・日曜・祝祭日・年末年始

東京医科歯科大学（代表）〇三―三八二一―三六一一

夜間、土曜、日曜、祝祭日、年末年始などの場合は、大学の電話交換手にその旨お伝え下されば、担当者の携帯電話に連絡がつく態勢になっております。その際、亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時・連絡先・連絡者を必ずお知らせ下さい。担当者が学外におります場合には、東京医科歯科大学献体の会の会員であることをすぐには確認できませんので、ご連絡の前に会員であることを再度ご確認いただきますようお願い申し上げます。なお、迅速に対応できるように態勢をとっておりますが、諸事情（電波受信の状態が悪いところにいる場合など）により担当者からの連絡が遅れる場合がございます。大学から、担当者へは連絡がつくまで対応いたしておりますので、ご容赦願います。

二、大学担当者との打ち合わせ

ご遺族の代表者は次のことを担当者として打ち合わせて下さい。

①大学がご遺体をお迎えにあがる日時

②大学がご遺体をお迎えにあがる場所（住所・電話番号）

③お棺持参の要否

④ご遺族代表者の氏名、住所、電話番号

⑤「解剖に関する遺族の承諾書」等の書類は、担当者が後日お送り致しますので、ご記入、ご捺印をお願い致します。

⑥その他：お通夜、告別式をなさる場合にはその日時・場所をお知らせ下さい。なお、ご遺体の移送は大学がお引き受けし、寝台自動車でお迎えに上がります。

三、ご家族に用意していただく書類

○ご遺体移送のときに必要な書類

死亡診断書の写し 一通

・死亡診断書の写しをご用意下さい。ご遺体を寝台自動車で移送するとき必要になります。

○後日、郵送していただく書類

埋葬・火葬許可証 一通

・埋葬・火葬許可証は担当医師の死亡診断書を添え「死亡届」を市区町村へ提出すると交付されます。

・なお、火葬予定場所には「渋谷区代々幡斎場」とご記入下さい。

※注意事項

次のような場合、献体をお断りすることがありますので、ご了承下さい。

①事故で亡くなられた場合（交通事故死、水死、焼死、災害死など）

②死亡後、時間が経過し発見が遅れた場合

③病理解剖や法医学解剖によりご遺体にメスが入った場合

④大学から遠方で亡くなられた場合

⑤大学から遠方へ転居され、住所変更のご連絡がないまま転居先で亡くなられた場合

(④⑤につきまして、詳しくは《東京医科歯科大学からのお知らせ》をご覧ください)

⑥死亡後、臓器提供をされた場合

⑦重症感染症（新型コロナウイルス感染症を含む）に罹患し亡くなられた場合

右記に該当する可能性のある場合は、担当者にお知らせいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

《会報製作にあたって》

◎表紙の写真説明

夏夜

歯学部歯学科五年 原 佑輔

「夏夜」は、箱根温泉のとある旅館で撮影しました。

撮影したのは二〇二〇年夏。ご存知の通り、コロナ禍に入った年です。未知のウイルスの蔓延により、我々の生活は一変しました。今まで当たり前のように、教室に集まって講義を受けていたのが、ZOOMによる遠隔授業となり、実習もしばらくは中止、再開してからも日数を減らして行われました。部活動・サークル活動についても、対面での活動は全て禁止、オンライン上での活動のみ可となり、あらゆる大会やライブなどのイベントが中止となりました。その影響は今もなお残っていますが、医療者や研究者の努力によりCOVID-19に対する知見が増え、我々が行うべき対策も見えてきました。

夏ごろには新規感染者数も落ち着き、外出する余裕も見え始めました。とは言え、友達とワイワイ旅行するのは控えたい。ということとで人生初めての一泊二日の一人旅をすることにしました。行き先は、神奈川県足柄下郡箱根町の箱根温泉。宿泊先を出発前夜に決め、現地での過ごし方もその時々で決めるといって、何とも自由な旅程でしたが、自らの気が向くまま、直感に従って動く旅は、五感が研ぎ澄まされ、自分という人間を理解させてくれました。

そんな旅の宿泊先で、出会った豚の蚊取り線香。自然に囲まれた足湯スペースには、箱根の虫たちもついつい一息つきたくりますが、ここでは休まらないよと門番のように悠然と佇んでおりました。猛暑が続く東京では、窓を閉めて一日中エアコンで過ごす日も多く、蚊取り線香が活躍する場面を見ないように感じます。しかしながら、場所

を変えてまだまだ現役で活躍している蚊取り線香は、本来の用途に加え、郷愁の雰囲気も漂わせており、自分の旅の思い出の一枚に深く刻み込まれました。

故きを温ねて新しきを知る、この言葉を思い出させてくれたかわいい豚さんと出会った記念の一枚です。



◎編集後記

今回の表紙は夏夜。蚊遣り豚の「夢」の文字に、幼い頃の思い出が浮かび上がります。幼い頃に限らず、子どもというのは勝手なものです。思い立って電話して、親の元気な声を聞けば嬉しいくせに、話は、今度聞くからと電話を切ってしまう。しかし、「日常」だった親子の団らんも、年月を経るうちに、「もう次はないかもしれない風景」に変わってしまうことを『東京物語』（小津安二郎監督、昭和二十八年）は教えてくれます。

主人公は尾道に暮らす老夫婦（笠智衆、東山千栄子）。蒸気機関車で十六時間かけてやってきた両親を東京の子ども達は精一杯出迎えます。町医者の子の長男（山村聡）、美容院を経営する長女（杉村春子）、戦死した次男の妻、紀子（原節子）。こうして会えるなんて、なんやら夢みたような、との言葉に「お母様ちつともお変わりになりませんわ」と返す紀子。一方、長女は、体格のいい母親に「お母さんまた少し大きゅうなったんじゃないかしら」と軽口をたたきます。夕食後、親子兄妹は蚊取り線香の煙たけよう居間で団扇を扇ぎつつ、昔の知り合いや故人の話をし、それぞれに時の流れを感じていきます。

親をもてなしたい。しかし、子ども達には今の生活がありました。長男は急患が入り、翌日の東京見物は中止。長女も仕事を立て込み、時間を作ることができません。忙しい子ども達を見て、両親は帰途につきますが、母親は体調を崩し、ほどなく尾道で亡くなります。

駆けつけた子ども達も東京に戻るや、居間に座っているのは父親ひとり。窓外の隣人に父親は答えます。こんなことなら生きとるうちにもっと優しゅうしといてやりやあよかったと思いますよ。その背をなでるように蚊取り線香の煙が揺れながら上っていきます。

過ぎればすべては夏夜の夢。だからこそ今、会いたい人に、伝えた言葉を。ぜひ、表紙より思いを馳せていただけたらと存じます。

（片野尚子）

《東京医科歯科大学からのお知らせ》

◎献体時のお引取り可能な範囲について

日頃より東京医科歯科大学の医学及び歯学教育ならびに篤志献体活動に対するご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

お引取り範囲については以前より献体の会総会などでお伝えしておりましたが、今般の物価高騰やガソリン代の上昇などに伴い、財政的な事情から学内で検討し、今後、献体時のお引取りに伺うことのできる範囲（お迎え先）を、東京医科歯科大学より四十キロメートル程度以内を目安とし、制限させていただく運びとなりました。お引取りに伺うことのできる地域については左記の表の通りです。

東京都	東京二十三区、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、西東京市、八王子市、昭島市、福生市、青梅市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町
神奈川県	横浜市、川崎市
千葉県	千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市、四街道市、印西市、白井市
埼玉県	さいたま市、川越市、川口市、所沢市、春日部市、狭山市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、八潮市、富士見市、三郷市、蓮田市、吉川市、ふじみ野市、白岡市、伊奈町、三芳町、宮代町、杉戸町、松伏町
茨城県	つくばみらい市、取手市、守谷市、利根町

したがって、献体時のお迎え先がこれらの地域よりも遠方となる可能性が高い場合には、お近くの大学の献体団体に転属していただくことをご検討いただきたくお願い申し上げます。お近くの献体団体につ

きましては、献体の会事務局よりご紹介させていただきます。

現在のお住まいもしくはお引越し先がこれらの地域よりも遠方である場合、基本的にはお引取りをお断りさせていただきます。しかしながら、お迎え先が範囲内の病院や施設、葬儀場などである場合にはお引取りできる場合がございます。ご不明な点がございましたら、献体の会事務局までお問い合わせください。

献体の会会員の皆様には、ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。東京医科歯科大学への献体をご希望いただいた、そのお気持ちは大変ありがたく、ここに改めて関係者一同より御礼申し上げます。何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

◎住所変更等の連絡のお願い

住所、氏名、電話番号、ご家族の連絡先等が変更になった方はできるだけ早く献体の会事務局まで、お電話または文書等によりご連絡お願いいたします。

会員ご本人様が前述のお引取り可能な地域よりも遠方へ住所を移される場合には、お近くの大学の献体団体をご紹介する場合がございます。お近くの献体団体につきましては、献体の会事務局より該当する献体団体を提示させていただきます。また、お亡くなりになった後に他の大学にご紹介することは、非常に難しいため、住所を移される場合には献体の会事務局にご相談いただきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

連絡先	発行
東京医科歯科大学献体の会	〒一三一八五一九 東京都文京区湯島一―五―四五
電話	〇三(五八〇三)五一四七
FAX	〇三(五八〇三)〇一一六
印刷所	小宮山印刷工業株式会社
電話	〒一六二一〇八〇八 東京都新宿区天神町七八
電話	〇三―三三六〇―五二二一